

地下採掘の可否 (一)

野崎満藏君に與ふ

川崎 文治

野崎尊兄

君の昨夕警報時報に掲載した地下採掘問題に關する意見なるものを讀んだ、往年、全町擧げての大問題であつた大瀧發電所問題に際しては、君との意見が全く相反馳して、言論に文書に頻りに君と鎗を削つた記憶は、未だ余の腦裡に生々しい事實である。今回の地下採掘にしてもその通り、満腔の信頼を君の意見に傾注する上に於て、餘りに距離のあり過ぎるを甚だ遺憾とするものである。

野崎尊兄

地下採掘に關して「平町の地下を掘らして、一時黄金の雨を降らしてはどうかそれが二年でも、三年でもそんな事は問題でない、黄金の雨の降る間に一金儲けさへすれば、其後平町が龜裂しやうと、陥没しやうと差支へなし、若しどうにも遣り繰りのつかぬ平町になつたなら、其時は、他の景氣の好い土地に移住すればよいではないか」との意見

を吐露して居るものもあると聞く。是れは恐らく暴論と云ふべきであらう。若し此の意見を引く伸して考へれば「日本の國は潰れてもロシアに任せよ、アメリカにも日は照つて居る」と云ふも同様ではないか。我々は今日、平町は景氣が好いから住む、明日不景氣になれば、尻に帆かけて逃げ出す……と云ふ様な腰掛け氣分に甘んずる事の出来ぬ事實を何んとする、平町が此の後萎靡退嬰し盡す日があつても、我々は平町に枯骨を埋めて、此の土地と共にせねばならぬ運命

に支配されて、今日生存しつゝある事を懐ふ時當るか當らぬか太短主義で押し進むと云ふが如き、冒險的な投げやりな態度で町政を見る譯には行かない、従つて採掘はなりとする君の意見を直ちに聽従する事の出来ぬ、幾多の疑問を抱藏する事になるのである。(續く)

片倉製糸 私立女校

此程認可さる

既報平町警報片倉製糸工場を直ちに聽従する事の出來ぬ、幾多の疑問を抱藏する事になるのである。(續く)

四倉市場は 二十一日から

秋藪取引開始

肥料購買 促進會開催

點呼の成績良好

不參者はタツタ一名

昨報養蠶資金六萬三千圓の借入れを決定した四倉藪市場は來る廿一日から十月十五日迄秋藪市場を開催する事になつたが出廻り豫想高は二萬七千貫餘で前年より稍々減少するものと見られて居る

石城郡農會は縣農會と連絡を取つて十月十二日平町に濱三郡町村農會の役員を召集し肥料購買事業促進會を開會すべく準備中である

平町在住者の本年度簡閱点呼は今十六日午前八時から平第一小學校で柴田執行官により開始点呼人員二百二十四名、一名不參で今年度より初めての操銃訓練もあつたが比較的良成績であつたと

小濱漁港 繼續改修

其筋に陳情 植田町字小濱の第一期

工事は工費七萬五千圓で七年度より三年繼續事業として工事中であるが本年は防波堤十四米延長、防砂堤二十米新設し更に港内二千五百三十米の浚渫作業を行つて水深一米五十に達し第一期工事は今後二三日で完成するが同港は地形上更に十五萬圓前後の豫算で改修しなければ利用價值が少ないと地元有力者は明年度よりの繼續改修に就いて縣及び主務省に陳情すると

組合費の 滞納處分

江名信用總會

小川江筋組合は九年度組合費滞納者平窪村福田十直郎外六名の滞納額十五圓三十四錢を此の程強制處分に附したが同く鮫川江筋組合でも泉村高島光太郎外九名の滞納額二十八圓十六錢をいづれも強制處分に附し本月二十八日午前十時から團體事務所内で公賣に附す

江名信用總會 江名信用組合は去る十四日午前九時より小學校に臨時總會を開き定款變更、貸付金限度、組合員災害共濟規定制定等を協議しいづれも異議なく原案を可決した

平町人專 回出生

△銀治町 横山隆峯氏五女 英子
△南町 鈴木喜一郎氏長女 京子

▽廣告

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雜誌が 自由に讀める 川崎 回文庫 電六三〇番

逕次第規則書進呈

藥局開設報告

東京銀座伊東屋特製フランス人形店頭で御目見得致します 御卒皆様御覽下さい

店舗改築中大層皆様に御不自由を相懸けましたか愈々出来上りました一寸目新らしき明るい藥局となりました諸大醫處方箋調劑の御相手を仕りますれば何卒皆様方の藥局として多少に不拘御利用下さい 平町古銀治町(電話四四番)

阿康藥局

自轉車は左記

- 有名車を御撰擇下さい 世界的ニ進出セル ◎宮田ノ自轉車 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル ◎ゼブラノ自轉車 實用經濟車トシテ好評アル ◎マーツ號自轉車 ◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ偽物を販賣なし商標を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了解を得ん

宮田代理店 ゼブラ代理店 マーツ代理店 エビスヤ商店 電六六四

外科科一般

金成醫院 金成 忠 義 平鎌田町(電三五八)

頭痛で不快の方

フタバの磁器 本町中仲町(電一九三番)

凶か否かは

こゝ一週間

氣に懸る天候

青山郡農技手語る

昨今霖雨続き、凶作の再来を云爲されてゐるが、郡下の稲作状況について郡農會で取纏めた調査報告に依れば「良」と報告されたものなく「普通」又は「不良」と報告されて來てゐるが八月二十日頃までの天候如何は稲作に重大な影響を齎すものであり、こゝ一週間以上もこの陰鬱な天候が持續するとすれば再び凶作が招來するものと危惧されるに至つた、右につき青山農會技手は語

開花適温は二十度乃至三十度であるが、昨今の氣温は十五度乃至二十度従つて開花現象を呈せずまた連日降雨のため湿度も八〇%以上となつてゐるため殆ど花を付けてゐない、こゝ一週間乃至十日間の霖雨が續くものとすれば開花せずして成熟期に達するわけである出穂前四十日間即ち七月十日頃から八月二十日頃まで稲作にとつては最も大切な期間であるが斯かる天候が續くものとすれば憂慮に堪へない

變態天候で

俄然傳染病

四日間に十名

「返り梅雨」の様な變態天候が原因して平地方は晩夏に入り俄然傳染病の發生増加し平署管内は去る十二日以來本十六日迄の四日間に赤痢一名、疫痢五名、腸チブス四名、合計十名發生するに至つたので平署では目下各町村當局に防疫奮勵に大童である

松本書豪來平 別稿

書道展の審査員並に講師である書海社主幹松本芳翠師は矢野芳外氏外二名の助手と共に今十六日午後一時五十二分着列車で來平した

磐女排球練習 磐女排球部では來る廿二日福島

賭場手入

八名が逃走

赤井村大字赤井字常任一五六坑夫宗源五郎方で昨十五日午後八時頃同人始め同村畑子澤今田次郎(三)同村不動堂細谷忠治(五)外八名の十一名が十丹賭博開帳中を平署員に踏込られ前記三名を逮捕他の八名逃走した

旅先から

藝妓が遺書

狂言の逃走か

早速手配して捜索中

平町鍛冶町藝妓屋玉川家抱藝妓清次事茨城縣多賀郡大津町高田ツル長女キヨ子(三)は本月十日孟蘭盆で歸郷十二日自家へ歸る筈の處情夫の富山縣高岡市伎町製鐵製作所員土井茂一(三七)と二日間夫婦と稱して平磯町磯崎館に泊り込んだが十四日朝實母と主家へ宛茨城縣那珂郡前渡村阿字ヶ浦海岸で投身自殺をするとの遺書を寄せたので、湊警署に手配捜査中であるが自殺と見せかけ何れにか潜伏中でないかと見られて居る

正直運轉手

大金入の手提

届け出て落し主判明

湯本自動車商會坂本淺吉方運轉手鈴木四郎(三)君は昨十五日午後五時半頃乗合自動車運轉中平磯前で乗客が全部降りた後でハンドバッグが落ちて居るのを發見中

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 「山の便り水の便り」阿漕
- 後六、二五 夏期特別講座
- 全國神社めぐり
- 後七、三〇 科學趣
- 「怪火の正体」海野十三
- 後八、〇〇 管絃樂「アメ」

明日の部

- 後六、〇〇 盆踊唄 廣島
- 「友和踊」金澤「輪島盆踊」
- 仙臺「青森駒踊」
- 後九、一〇 盆踊「山」
- 踊「相馬鳥差盆」外
- 後九、三〇 時報 ニュー
- 氣象通報 番組豫告

明日の部

- リカ音楽の横顔
- 後八、四〇 盆踊唄 廣島
- 「友和踊」金澤「輪島盆踊」
- 仙臺「青森駒踊」
- 後九、一〇 盆踊「山」
- 踊「相馬鳥差盆」外
- 後九、三〇 時報 ニュー
- 氣象通報 番組豫告

今晩も明日も北東の風曇小雨

前六、三〇 速成フラスコ

語講座(21)丸山順太郎

前七、〇〇 朝の修養臨濟

前七、四一 六年生のおさ

らひの時間 地理(3)高橋篤

前八、四〇 品物の買方講

座「家庭用電機器具」望月敏男

前九、〇〇 衛生メモ

前九、四〇 中等學校野球

戦甲子園中繼

前一〇、三〇 母の時間

「自然物を玩具に造る」川澄須磨子

後一〇、〇五 和洋合奏江東

清墨堂に薫る

明日からの書道展

名家の出品多數

平町聯合書道會主催の全國書道展並びに講習會はいよいよ明日より三日間平第二小學校で開催されるが全國の作品は三千餘点に達し文字通り清墨の殿堂を築き盛況を豫想されて居る尙同展覽會に参考品として寄贈された現代書道大家の芳名左の如し

- △條幅 田内祥翠 鈴木君碩 川島陸山 大島君川 相澤春洋 米山朴堂 花房雲山 淺見喜舟 鈴木重成 高田升山 小野紅蘭 遠山英一 小野成鷲 半谷松湖 岡田錦浦 辻香鳩 生出大壁

古色蒼然たる

郡内の模型圖

委員を擧げて

平第一小學校玄關側に掲げられた二十五萬分の一の郡内模型地圖は磐越東線の通らない明治年代の作製である爲め夏休中に改造修理をすることに松本(政橋)瓜田 松崎 渡邊の諸

平裁判たより

△石城郡小名濱町宇古港九十五船具商大野直康(三)は

看護婦急派

求めに應じ

なす

平町南町

平看護婦會

電話三〇七

平職界の報告

- △配達 二十三才 尋卒
- 月五圓
- △製材工 十七才 尋卒
- 日給三十錢以上
- △女中 四十以下 尋卒
- 月五—六圓
- △番頭 四十以下 尋卒
- 委細面談
- △回職を求むる方
- △女工 十八才 高卒
- △津服職 四十六才 中二
- 修
- △雜役 三十一才 尋卒
- △トラック助手 二十才 高卒
- △女中 三十九才 尋卒



明治太平記

(上巻及下巻)

(作) 寺島雄史

第二百一回

好餌 (六)

「おれを、恨んでるだらう。大久保を刺す大役を果さぬおれを、さぞかし天竺はじめ一統が憎んでることだらう。」

さう、溜息とよに呟いたとき、なせか、おふくの身内を湯のやうに走るものがあつた。

大役を果さうとする。はげしい情熱の高潮だつた。

そんなおもひで、この日頃妙にちり／＼してあるおふくの顔をみて、ある日パークスは、いつに似すニコ／＼しながら呼びかけた。

「おふくしやん」

おふくの良順は、しとやかに顔をあげた。

「けふ、ひさし振りで散歩しませんか、おふくしやん……」

「はい……でも……」

「いやですか……だが、いやでもけふは是非、わたくしと一緒に散歩してください」

高慢不遜な外国使節がおふくにだけは、纏綿たる愛情の濫費だつた。

「……あのう、大久保さん

ることになつた。まもなく振袖姿に青繪傘をさした、あでならしやめんが、紅毛人と合乗りで、異人馬車を驅つてゐた。

「……」

「いや」

それなら、いや……と、頭を振つた。

「どうして、大久保しやんのところなら往くといふの

異人馬車に、紅毛人と合乗りして、意気揚々と、都大路を散歩する、振袖姿に、青繪日傘をさした、あつぱれらしやめん面がする分行人の目をひいた。

「何といふ恥知らずの犬畜生だらう……」



です」

「いゝえ、別に仔細はございませぬわ」

「では、一緒に、馬車に乗りなさいやい」

おふくの良順は、濫々パークスの意にしたがつて、異人馬車の合乗りで、東京市内を、傍若無人に散歩す

「……」

「……」

「……」

つくしく顔を染めてゐる光り、それが一層おふくの麗質に、あでやかさを添えてゐた。だから、振かへるのは女だけではなく、たいいていの男たちも……

おふくの良順の顔をみた。「はい」
「これが、日本の首都、東京の玄關ですね。低い瓦屋根、くすぶつた色調、石ころだらけな凸凹道路、なんと、情ない玄關ではありませんか」
「日本の首都のムスメさんあんたも、一度、大英帝國ロンドンに遊んでみられるがよい。文明國と野蠻國とが、かうもちがふものかと驚くでせう」

夜間
胃腸病科 皮膚科
花柳病科 性病科
皮膚科
門 專
院科 性病 胃腸 村松
(平町南町一七〇番)
療

増車御披露
陸の王者として定評ある流線型ダツチ
ブラザーズ二輛増車致しました。タク
シーの御使用の際は新車揃の尼子タク
シーに御用命を御待致して居ります。
大型貸切専門車も御座います。

尼子タクシー
電話六四〇

外科 專 門 科 線 光 X
上田外科病院
平町 南町
電話一二九番

コロンビヤ 新製品 蓄音器
ポータブル 金貳十五圓
レコードは
コロンビヤ の平盆踊り
其他新譜澤山あります
平町五丁目(電一九五番)
金光堂時計店

難波 院
内科一般
醫學博士 難波 睦
看護婦募集
平町大町新川端
電五〇二

磐城セメント會社特約店
久全屋商店
磐城平町五丁目 電話九番九九
良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は久の生命なり